

## 新たな不登校が生じない取組（「未然防止」の取組）

### 不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

#### 【取組1】（A中学校）

「生活のきまりに関する集会」として、新しく始まる生活に不安や心配さを感じる年度初めに、学年ごとに時間を分けて生活のきまりについて生徒が考える機会を設けた。その活動を通して「生活のきまり」が、「みんなをしばるものではなく、みんなが安心、安全に生活するためのもの」という考えを共有した。



#### 【取組2】（B中学校）

「学校紹介プロジェクト」として、生徒総会の後に、生徒会と評議会メンバーの企画で、教育用ゲームプラットフォームを使い、学校生活上のルールや学校や校舎内の設備に関することをクイズ形式で問い掛ける活動を行った。

また、「ほのぼのタイム」として、生徒会主催で昼休みにクラス対抗のレクリエーションを行った。

#### 【取組3】（C・D中学校）

これまでに行った生活意識アンケートの集計結果やその分析を教職員全員で共有し、「居場所づくり」や「きずなづくり」の取組の充実に役立てた。

教員が生徒に寄り添い、生徒が教員に相談できる雰囲気づくりのために生徒と教員の二者面談期間を設定している。この面談には必要に応じて学年の副担任や養護教諭等も参加し、生徒との関わり方が多面的なものになるようにした。また、不登校対応巡回教員も、生徒との面談にあたって留意すべき点を助言した。

#### 【取組4】（C中学校）

地区で取り組んでいる「授業改革」と関連付けて生徒指導上の視点を踏まえた授業改善に取り組んだ。その中で授業観察に有効な視点の共有と先生方の実践の価値付けをした。また、主に若手教員に対して、授業づくりについて他校の指導事例を含めた情報を提供した。さらに、全学年で行う学級集団調査の結果を踏まえた授業づくりや学級集団づくりを目的とした、専門家による校内研修も年2回実施した。

#### 【取組5】（B・E中学校）

長期休業期間中に不登校の事例を扱った研修を行い、支援会議のメンバーを対象に、主として未然防止に関わる内容の研修を行った。

起立性調節障害への理解と対応、SSWの活用に関する内容と長期休業日明けの生徒への関わり方に関する内容を中心に研修を行った。また、授業づくりに関する校内研修で、「生徒への声掛け」を意識してもらう機会をもった。

## 多様な学びの場を確保する取組

### （「早期支援」及び「長期化への対応」の取組）の推進

#### 支援会議（E中学校）

週1回特別支援教育コーディネーター、SC、不登校担当巡回教員の3名で、不登校対応に特化したミニ支援会議を実施した。

翌日に開催される支援会議の全体会で話題にすることを整理し、その内容を書面で管理職と情報共有した。

#### アウトリーチによる支援（B中学校）

支援会議で取り上げられたケースについて、本人と保護者の同意に基づいて家庭訪問による支援を実施した。

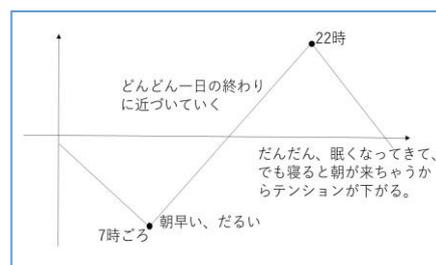
不登校対応巡回教員が担任に同行する形で実施した。終了後、担任とアセスメントし、その内容は支援会議でも共有するとともに、保護者とも共有し生徒への理解を深めることにつながった。

#### 校内別室における支援（A・C中学校）

確実に開室されている時間を作ることで、校内別室の利用を考えている生徒にも安心感をもてるようにし、本人と利用日時、内容などについて相談して決めることを重視した。

本人の不安や緊張などを考慮して本人が抵抗感を感じにくい内容を中心にし、社会性と情動の学習（SEL）（例：感情のジェットコースター）等を行った。

校内別室での様子を当該校の支援会議等で共有し、生徒理解をより深める機会とした。



#### デジタル機器を活用した支援（D中学校）

教科を決めて、その授業にリモートで参加できるようにした。普段はリモート授業やドリルアプリを中心に学習を進め、SCとの面談等で登校する時に課題を提出するという形で学びの機会を確保した。

#### 関係機関との連携（A中学校）

○SCと不登校対応巡回教員とで保護者相談を行った際に、双方で役割分担（「子供への関わりについての助言」と「情報提供」）を明確にして保護者相談を行った。

また、本人の所在確認の難しいケースについては、SSWに加えて行政の担当部署とも連携して対応した。

## 成果

アウトリーチやリモート授業への参加をきっかけに、登校や授業参加の意欲が高まったケースも見られた。また、生徒と担任の面談の機会を作り生徒理解を深める学校もあった。

## 課題

生徒指導上の視点を生かした授業づくりを中心とした未然防止の取組の更なる充実が課題である。